

千葉県感染症発生動向調査情報

2018年 第14週 (4/2-4/8) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	14週	13週	12週	11週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					千葉県 3/26-4/1 13週
		注意報	4/2-4/8	3/26-4/1	3/19-3/25	3/12-3/18	
			14週	13週	12週	11週	
小児科	RSウイルス感染症		6 0.33	2 0.11	1 0.06	2 0.11	22 0.16
	咽頭結膜熱		1 0.06	1 0.06	0 0.00	0 0.00	39 0.29
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		32 1.78	30 1.67	36 2.00	51 2.83	292 2.16
	感染性胃腸炎		79 4.39	69 3.83	81 4.50	87 4.83	452 3.35
	水痘		4 0.22	2 0.11	3 0.17	1 0.06	40 0.30
	手足口病		2 0.11	0 0.00	1 0.06	1 0.06	2 0.01
	伝染性紅斑		0 0.00	2 0.11	1 0.06	0 0.00	18 0.13
	突発性発しん		8 0.44	4 0.22	3 0.17	6 0.33	50 0.37
	ヘルパンギーナ		2 0.11	1 0.06	0 0.00	0 0.00	2 0.01
	流行性耳下腺炎		1 0.06	3 0.17	3 0.17	2 0.11	9 0.07
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		23 0.82	42 1.50	94 3.36	159 5.68	412 1.93
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		2 0.40	1 0.20	0 0.00	0 0.00	20 0.57
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	1 0.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	4 0.44

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(6件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	IGRA検査	結核	女性	40歳代	病原体遺伝子の検出
結核	男性	70歳代	病原体の分離・同定	結核	女性	60歳代	IGRA検査
結核	男性	80歳代	画像診断等	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出

・第14週は、結核5件(56)、百日咳1件(14)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第14週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週より増加し0.33となった。過去10年の同時期と比べると最多。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週よりやや増加し1.78となった。過去10年の同時期と比べると少なめ。例年の発生動向によると今後増加する傾向にある。

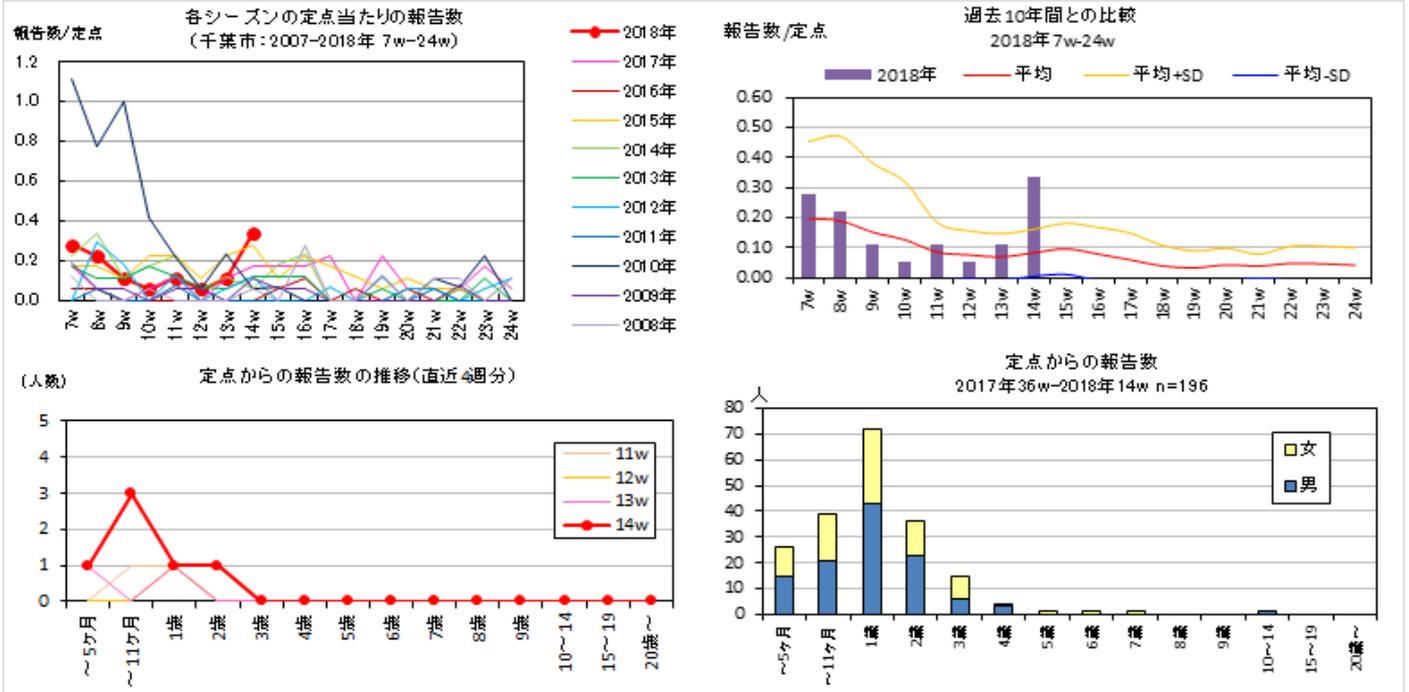
■ トピック ■

＜RSウイルス感染症＞

全国レベルの第13週は、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では沖縄県、宮崎県、鹿児島県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと少なめとなっています。千葉市の第14週は前週より増加し0.33となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。

区別の発生状況は、若葉区(1.25/定点)で最多で、同区の6～11か月で最も多く発生報告がありました。

今シーズンである2017年第36週から2018年第14週までの累積報告数(n=196)によると、性別では男性が57.1%(112名)、女性が42.9%(84名)で、年齢階級別では1歳(36.7%:72名)、6～11か月(19.9%:39名)、2歳(18.4%:36名)の順で多くなっています。



＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第13週は、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなっています。都道府県別では石川県、新潟県、鳥取県の順で多く報告されています。千葉県はほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市の第14週は前週よりやや増加し1.78となりました。過去10年の同時期と比べると少なめですが、例年の発生動向によると今後増加する傾向にあります。

区別の発生状況は、緑区(3.75/定点)で最多で、同区の3歳で最も多く発生報告がありました。

今シーズンである2017年第36週から2018年第14週までの累積報告数(n=1072)によると、性別では男性が54.0%(586名)、女性が46.0%(486名)で、年齢階級別では5歳(14.5%:155名)、4歳(12.7%:136名)、6歳(12.1%:130名)の順で多くなっています。

